



# 障がい者と家族 地域社会との 共生を目指して



一般社団法人  
岩手県をつなぐ育成会

## 伊藤 昇 会長

平成26年八幡平市社会福祉協議会会長に就任。今年5月に一般社団法人岩手県をつなぐ育成会会長に就任。それに伴い岩手県社会福祉協議会評議員に就任した。長年にわたって知的障がい者との関わりが深い。

### 新会長就任の抱負をお聞かせください

育成会活動の基本となっているのは、障がいの有る無しで特別視するのではなく、お互いの個性を認め合い、尊重し合い、共に生き生かされる共生社会を実現することです。それは今や世界の共通認識となつていきます。

私たち育成会は「障がいのある人達が地域社会の中で差別無く、当たり前の生活ができる」ことを願つて、60年間活動して参りました。多くの方々の努力で現在の団体会員数は51団体、会員数は1,230名に及んでいます。

新会長に就任しての抱負というより、長年障がい者との関わりが深いだけに、障がいのある人が、ひとりの市民として差別なく生きることができ、その尊厳にふさわしい生活を保障されること。それを信念としています。

岩手県では既に平成23年7月に「障がいのある人もない人も共に学び共に生きる岩手県づくり条例」が施行され、障がいのある人とな人が共生できる地域社会づくりが進められており、多くの障がいを持つ方々が地域の一員として学び、働き、社会に参加し、自立して生活しています。

しかし、障がい者に対する誤解や偏見はまだまだ払拭されてはおりません。さらに障がい者と家族、地域社会との共生を目指さなければ

ばならないと考えております。私たちはこの県条例に基づきながら、一層、障がいのある人とな人が手を携え、差別なく、共に生きていく岩手づくりを進めなければならぬと、心を新たにしているところです。

### 育成会の一層の活性化に向けて、課題をお聞かせください

これまで育成会を支えてきた会員は、団塊世代以上の世代の方も多くなり、着実に会員の高齢化が進んでいます。一方で少子化の中にあつても障がい児の方々の数は増えていると言われています。

共生社会に向けて、新たな時代を担っていく若い人たちの声をいさせる活動が必要となります。各市町村ごとに若い新会員の加入促進を進めています。いずれは1,500名程度まで会員数を増やしたいと考えています。

また、障がい者本人の高齢化への備えとともに、高齢化する家族同居への支援、児童学齢期からの支援、さらに地域支援や家族支援の強化などが必要と思つていきます。

先を見据えた息の長い活動を行っていくためにも、会員それぞれが持つ知識と情報、そしてさまざまな機能を合わせながら、集約化していくことが、大切と考えています。

一例ですが、陸前高田市や八幡平市などでは「ふるさと納税返礼品」作業の一環として、障がい者のお手伝いの場を広げています。

こうした行政や施設、社協等が一体となった新事業もどしどし推進しなければなりません。育成会活動を活性化していくためにも息の長い活動やメニューを模索し、実践していくことが必要と考えています。

## 育成会が目指すこと

「障がいのある人もない人も共に学び共に生きる岩手県づくり条例推進協議会」より

### 県民の皆さんへ

- 障がいと障がい者差別について理解を深め、ともに差別的解消を目指しましょう。障がい者はあなたの隣人です。
- 障がいのある人とその家族が、地域の中で生活し、あらゆる分野の活動に参加し、皆さんと協働できるよう、支援してください。

### 障がいのある皆さんへ

- 社会の様々な活動に、地域の一員として、積極的に参加し、関わらしましょう。
- ご自分の障がいの特性や障がいがあることによる生活上の困難について、積極的に周囲に伝え、理解が得られるように努めましょう。
- 不利益な取扱いを受けた場合や、障がいに対する誤解、偏見、理解の不足等で困った場合やそのことを知った場合には、ためらうことなく私たちに相談ください。その積み重ねが社会を少しずつ変えていきます。